



明治三十七年十二月

戰時日誌

軍艦三笠

機關部記事抜

1505

三月分戦時日記

十日

晴

西風力四

七時廿六度廿七分

東至百廿二度七十分

前

〇三〇

七時廿七度廿七分

七〇

七時東三度針

八三二

漂泊

一一五〇

陸軍用船録倉丸廿西へ航し病院船一隻南を航し

一一二五

善行善行状陸軍津渡了了了艦長訓示

午後

善田八蓮山未合

六〇

前進し起る半速針路南へ東加東起真内島

東南東十五度

聯合艦隊告示第二〇〇號

海軍

十二月一日 艦長訓示 總員 於内島沖

一昨日石炭塔載速度々々實ニ驚ク可キ速度ニシテ一時間一分ニシテ
三百个噸ヲ搭載シ終リ多ク其最優分隊ノ成績ニ徴スル所ハ實ニ一時間平
均四百五十六噸トナル斯クシテ進歩シ殆ト止ル所ナキヲ觀テ是レ偏ニ分隊
長以下諸員ノ精勵競争ノ外ナラズト信ジ深ク其意ヲ謝ス尚ホ望ム所ハ
其速度四百噸ヲ限トシテ予ハ是レ以上多キ望ム勿論少キ望ム所也
凡軍ニ石炭取リメシテ能事終ルトセス是レガ準備並ニ跡片附ヲ合シテ
混乱ニ載止ル状況ヨリ斷固トシテ整備スルヲ速度迅速ニシテ切望ス
朝ヨリ石炭搭載ヲナシ夕軍事ヲ檢テ施行スル能人サレバ如キ人等ノ取ラレ所
一并三回旅順港總攻撃ノ國民一同熱誠ニ其陥落ヲ期待スルニ係ルニ非常
ナル損害ヲ為メ其目的ヲ達スルノ能人サレバ深ク遺憾トスル所 而トモ非常
ナル勇氣ヲ以テ幾度モ艦隊ノ後遂ニ標高ニシテ高地ヲ奪取スルヲ得タリ
庚ニ吉ノ廿五日ヨリ開始シ今朝漸ク其報ニ様ヨリ其結果ニヤ歎艦隊

添
簿

坐落り促ス其タレバク吾人の深三層ノ苦心慘憺其赤誠ノ底ニ深キ同情
ヲ表シ哲言ニテ之ヲ珍戒スルノ覺語ヲ要ス

1508

七月二日 晴 南西ノ風力二三 北緯廿八度廿四分

東至西廿二度廿四分

午前 〇三〇 北西ニ変針

七〇 北東ニ変針

八一〇 漂泊、富士支那船ヲ sight 候ス

午後 〇五 通信艇四十九号来着

一一五 内筒砲射撃

四二〇 竜田、来会

四五五 卒進級申渡シ

五五八 起動、半速、針路南ノ東北東起矣、内島ノ南

東九南八哩

六五〇 南東ノ東ニ燈光ヲ認ム、竜田之ヲ檢入支那船ナリ、亦ニ空船ナリ

聯合艦隊首示録二〇一號

海

十二月三日 晴

南風力二三

北緯廿八度世三分

東至百三十三度五分

午前 〇三〇 北西に雲針

〇三五 左舷前より燈火を認め、黄白とて候人

ハ七 漂泊

ハ一七 防火操練

ハ三三 福井丸未会

九一五 奄田未会

一一四〇 明友、大孤山丸未会

午後 〇三八 通信艇四十二号未見有人

二一五 捕獲船(イ)寧丸朝日傍に未見とて之を解放ス芝罘ニ赴リ

五五五 起動、平速、針路、南に東に東

聯合艦隊告示第ニ〇三號

海軍

十一月四日

晴

西蕃及西風力二三

廿年世八度世三十分

東至百世度十五分

午前

の三〇 北極西に針

三三〇 右舷船首四角より赤燈ヲ認め富士之ヲ臨梭入

第一永見ニテ海洋面ヨリ威侮衛ヲ赴クヲ知ル

七〇 北極東に針

九五五 左舷正横ニ到リテ漂流スルヲ認め距離三千七百米矣

九一五 大孤山千代丸未合

九五四 漂流

一〇〇〇 分隊真核

一〇三〇 善行章行状整理

一〇五五 勅語捧讀了テ艦長訓示

午後 〇〇 八重山未合

〇五〇 通信艇 世七号 来会

四四〇 奄田 来会

五五九 起動 平速 針路 南之東 北東

九三〇 右舷 艦首 二隻 汽船 航海 燈ヲ 認ム 奄田

之上 臨検ス 函鏡 丸ニシテ 四ヤトシ 二隻ヲ 検ク 知ル

威海衛ヨリ 海洋島ニ 赴ク

聯合艦隊 告示 第二〇三號

十一月四日 艦長訓示 總負 於内島件

一本日ノ善行善行状整列ノ各々其整列位置ニ惑ヒテ混乱遅延甚ク醜態ナキ而モ白令ヲ以テ豫報シテリガ故ニ漸クニシテ此レ迄ニ安泰ナリ由来此ノ整列ノ主眼トスル所ハ各自ノ行状ヲ記テ善ニ依リ表レシテ其腹心ヲ示スモノニシテ其表不法カコリ頗ル簡率取ルニ足ルヲサレカモ實ニ甚ク貴重スルモノナリ信ス且ニ戰時表彰スルキ勤務動作ヲ為メ特別善行善行ヲ授與セラレタル者モ亦不意ニ上官ヨリ査閲ノ余アリモ決テ狼敗セラルカカ為メ萬事總テ予ノ準備シ置クニ意ニ外ナラズ令隊長檢査毎々其分隊ノ令ニ依リテ容勢整頓等見ルニキアラカキモ一度其所屬指揮者ヨリ察シテ本日ノ善行善行調査ノ如ク整列スルハ幾分ノ善ナキヤヲ疑フ莫シ大ニ大膽ニ感スル莫シテ畢竟意竟上官ニ對シテ敬意ノ欠クニ為セザレバ得ス余ガ教育シテアル兵員トシテハ何人ノ令ニ依ルトモ些少ノ懸隔アルヲ終始一貫堅固ヲ奉ルニテ誤ルニカズ余ガ多クモ毎月一回

勅諭奉読ナシテ見已畢竟此意ニ外ニ陸軍ノ場合如キ下級ノ有ニテ大部
隊ヲ指揮シタル实例ヲ交余乗艦台歳ヲ過テ兵員ノ一海勢ヲ矯正スルハ
セム不名譽ヲトシテ久シキ間令隊乗換ヲ行ハストモ敢テ心ヲ弛ニスララス

一、昨日富士艦長ト談話ノ際令艦ハ三等ノ見張り嚴重ナル之ニ尾スルヲ頗ル
安全ニ付ノ間ノ寧日慚愧ニ堪テ、各自當面中ハ凡テ責任ヲ重シシ監視嚴重ト
ハ余ハ枕ヲ高クシテ安眠スルヲ得ルナリ、實ニ此艦隊ハ貴重ニシテ熟考スルハ愈々
其大切ナルヲ知シ、富士ヲ兵員ハ此心ヨリシテ各自双眼鏡ヲホメ以テ監視スルノ良習

ヲ生ズルニ至ルトト言フ余ハ實ニ羨談トシテ斯ルハ良キ心掛ニ付茲ニ同ニ之ヲ語ル
一、職令即チ各自ノ本分ニ関シテ、余カ屢々訓誡セシ所ニシテ人トシテ其本分ヲ尽スル
ニ良果ヲ得ルヲ基テ先月賞與セシ所者如キ又伊國在勤中余カ便衣ニシテ從僕
ノ如キ實ニ其本分ヲ充分ニ尽セシモノトシテ、艦内諸員ハ勿論一傭人等ニ至
テ亦各其本分ヲ尽サン者ニトシテ事務ノ進歩頗ル^殊速ニ也、且チ猛省^殊熱心^殊慮

セヨ

十月五日 晴 北東風力二三各東南東及南東風力一二

北緯廿度廿三分
東經百廿度八分

午前

030 北西大西之変針

七八 北之变針

八五〇 漂泊

九〇 自差修正ヲス

九一五 砲台長集合艦長訓示ヲ行ハシ戰鬪操練

一〇三〇 右舷側砲ヲ引入レ石炭船横付用意

一一二〇 遼東丸ヲ右舷ニ横付ス

一一四〇 石炭塔載ヲ始ム

一一五〇 通信艦四十五号未着

午後
一一一 石炭塔載了ル 莫炭灰三百四十八噸

四一〇 八重山未会

五五七 起動 年速 針路 南東加南 起 莫 四島 西

七俣 年

聯合船隊告示 屏二〇四號

1516

十一月五日 艦長訓示 砲台長工 於内島津
本日操練より距離通報器及高声電話管ヲ試用ス
各分隊於テ一々其指揮ヲ控エ置クベシ又敵ノ動靜ヲ部下ニ告知ス
可シ

海

軍

1517

十月六日

晴

午前南西カ二三 午後南カ二

北緯廿六度廿四分

東經一〇三度十三分

午前

〇五〇 東に北に燈光ヲ認ム

一五 右汽船ヲ避ル同時ニ北西に西に變針

一二〇 右汽船ヲ探照ス亟に鐘ナリヲ知ル

七〇 北に東に東に變針

八二五 漂泊

一〇一五 淡靄四塞ス

午後
〇四〇 通信艇四二六号ヲ来着

一一五 内筒砲射撃

三四二 高砂来会

四三〇 高田来会

五三〇
六〇

八重山来会

起動、羊速、針路、南々、東々、東、起、長、内、島、
東南東、加、南、西、洋、半

聯隊機密第一三六號ノ二
聯合艦隊告示第一〇五號

1519

聯隊機密房一三六號ニ

密航船防遏、為メ芝罘付田陸軍少佐、派遣セル汽船又
間諜對ニ相當、保護ヲ喫ル旨、曩ニ聯隊機密房一三六號
ヲ以テ訓示相成リ、所尚右ニ関シ別紙之通、詳報ニ接シ候
條及御通知候也

明治卅五年上月六日

島村聯合艦隊參謀長

(別紙)

本日電報ヲ以テ御座報致シ候、今宜旅順ニ密輸入
國ノ敵ノ密航船防遏ノ目的ヲ以テ、山東省各沿岸並ニ瀾島
列島ノ各島ニ派遣シ各地ニ於テ、居民ト結托シ、支那民船ヲ密
査シ密航船ノ有無ヲ探查セシムル等、間諜ノ運路ヲ
為メ汽船都丸ヲ山東省北沿山岸ニ瀾島各島間諜所在地
ヲ巡航シ、常ニ間諜ノ報告ヲ蒐集集メテ之ヲ實艦隊ニ報告

或場合依り密航船より貨船を送致せしむべし
昔海上に封鎖各船船へ御通達下し度又各間謀探偵
為り登州府に根拠地ありし日本人四名を流遣し置き其実行
上は常に常ニ貴船隊に指道する保護あり仰下されば
候間其旨承知下度右に御通報候也

明治七年十月廿日 在芝罘 陸軍歩兵少佐 守田利遠

進り日本人及船船在如し

在登州府日本人

主任 吉見國藏

森井豊一

伊木虎吉

土井直五郎

汽船都丸

十二月七日晴、露霧、午前北北西力二、午後北西力四

北緯廿八度廿分
東經百廿二度十二分

前午

一〇 北西に西に交針

二〇 海軍需科以テ覆心滋気甚レ

六五 四ヤクシ一燈光ヲ認ム

七三五 漂泊

八四五 北東に北に交針内筒砲射撃ヲスル

一〇 北に交針

一〇 一〇 打方始メ

一〇 五五 漂泊

一一 三〇 内筒砲打方ヲ止ム

一〇 〇 菴田末会

午台

三三〇 八重山末会

五五八 起動半速針路南東海南起英田島ノ南々

東十五陸

一一三〇 北西変針

聯合艦隊告示第二〇六號

十月八日 晴 時子午 北風力六午後力四

北緯廿八度廿五分

東經百廿二度十三分

午前 二二〇 右舷月出 燈光ヲ認ム

七一〇 北西ニ変針

一〇一七 漂泊

午後 〇 山城丸未合

一〇 内筒砲射撃手(東的)

一一〇 通信艇四十五号未着

四〇 艦長手佐世保へ向テ津間ハ兵ニ向テ出テ發入

五〇 總員集合、艦長訓示

六〇 起動、平速、針路、南東、南起、真内、島南

東九、東十、徑平

其ノ日ヨリ艦隊区分在リ通リ更ス

第一隊 三笠 富士 朝日

第二隊 春日 日進 竜田 八重山

艦長刻

一昨今敵艦隊ノ吾々ノ尤ニ喜ブ所ナリ。昨日以來口ト字トテシヨリ
我レモ夕シヨリト字トシテ引續キ沈没。殊ルニマセバト和シヨリハヤシ
ハ月ナリ。是レ我レ海陸軍ノ苦戰終リ月ノ久シキ堪ニ爲ルニ生
將ニ来リヨリト字トシヨリ艦隊ニ對シ我レ海軍ノ作戰ヲ容易ナ
勿シヨリ結果ナルヲ銘記セザレバ可キ

一不日本艦隊、第三太平洋艦隊ニ對シ準備多シ本國ニ回航ニ大砲
搭載、機械等入セヨシ。此際本職一同ニ向テ刻成セヨシ。一瞬時
元ハルカク艦隊ナルモノヲ其艦中ヨリ去ラセヨシ事ナリ

十二月九日 晴 南々東及南力午前二午後八四

北緯廿八度廿九分
東経百廿度五分

午前

リミロ 北西に西に交針

七ニ 北東に北に交針

七一五 原速(六十三回転)

七二ロ 北東に北に交針

ハ七 深泊 戦闘準備ヲス

ハ三三 遇岩ヲ南に向ノ

ハ四ロ 西に南にナス

ハ五五 河島ヲ右舷正横十二哩見テ通過ス防水扉ヲ充分

ニ閉鎖ス

一〇一〇 戦闘操練

一〇二二 竜田支那船臨検

一〇五三 負傷者運搬ニ付艦長訓示

一一〇 遇岩北を西加西五涯ニ発見ス

一一二〇 准士官以上ヲ艦橋ニ集合艦長訓示 此日「ロバストホリ」

岩港セリト報アリ因テ遇岩近傍ニ赴ク

午後 一〇 竜田未會入

三〇 起動 奈速 針路 南東加南

六〇 半速

一一四四 山東高角燈台ヲ南ト東ニ認ム

聯合艦隊告示第二〇七号

十二月九日遊士官以上一艦長刻不

一通信法其他ノ事項ニ於テ不王合ナレトテ尙見セハ直ニ艦長ニ報告ニ改
善ニ努リ可シ

一負傷者運搬操練ニ完全ニ遂行セリガルヲ云

一操練其他ノ事業ニ於テ士官各其職ニ應ルニ頭脳ヲ以テ下士以下ヲ
教育セガルヲ云

一在船内地ニ飯ニ時下士率ニ於テ不品行癖等世々抑又喧嘩乱
暴ニ交ハ操練ノ時ノ之等ニ制戒ニ遣フ可シ

十二月十日

曇時降雨

午前南東風力三午後北東力六

北緯廿度四十七分

東至百廿度四十分

午前

一五

彦田其航首ニ燈夫ヲ認メテ探照人

二二〇

左航航首約四兵ニ燈夫ヲ認ム

二三〇

微雨降ル

二三〇

山東角燈台ヲ右航正横ニ見テ通過ス

三三〇

右燈台ヲ西ノ南七度ニ見テ南ニ更針

五一〇

西南西ニ更針一燈夫ヲ認ム

七〇

北ニ更針

七四〇

富士朝日列ヲ解テ左横五度間隙ヲ探

索列ヲ作ル

八一五 日進春日ヲ北東イ東約七度ニ認ム

- ハ三〇 原速(空回轉)トス
- ハ四ハ 西北西ノ方向ニ爆発ヲ聞ク之ノ竜田浮流水雷ヲ爆沈セシモノナリ
- ハ五〇 搜索列ニテ諸航ハ速ニ基準航ニ集合セシ
- 九二〇 北々西加西ニ妻針
- 一〇一〇 六番航ハ本航ヨリ正航一哩ニ位置セキ
- 年 一四〇 ヲリ風力急変増加シ五乃至六トナシ北ニ妻ズ
- 二四五 半速
- 三〇 気温漸次ニ下降シ綿雪降リ
- 四四〇 第一、第二小隊豫定行動開始但ニ第三、第四小隊ハ内島附近ニ止リ彼我ノ連絡中心トナシ他諸隊ハ山東南附近ニ下ル
- ハ〇 南東加東ニ妻針

昨日ノ電報ヲ看ム

日進ノ電報

本船ハ〇地莫ト丁地莫トノ間ニ漂泊シ通信ヲ維持ス
其船ハ残余ノ諸艦ヲ率ヒ昨夜尙小隊ノ如ク行
動シ敵ヲ膠州湾ニ入ラシメザル様警告セヨ電
田ハ重山ハ便宜カトシ又ハ榮城湾ニ風波ヲ避ケ
シム昨日以来オバストボリシノ膠州湾ニ逃ヒラ防ガ
手飯ヲ取ルモノナリ

海

軍

十二月十一日 晴

午前北ノ風力今午台北西及北力三四

北事廿八度廿四分

東全百廿三度十分

午前 一。北西加北ニ妻針

七。北ニ東ニ妻針

午後 四五。山城丸未會

五五。原速北西加北ニ向ノ

六三。漂泊仕置内島ノ南ニ東ニ東十五海里

此日、夜間、漂泊ス

海軍

十二月十二日 晴 北風ノ風ノ三年台北東ノ風カニ

午時 七三七 起動 半速 北ノ西ニ空針

九一五 田島ヲ北ノ西ニ北ノ西ニ誌シ

一〇五〇 漂泊大孤丸 未合

一一三〇 大孤山丸ヲ右舷ニ横付ス

一一四〇 石山屋搭載ヲ始メ 英山屋四百六十噸ヲ取ル

通信 船四十五号 未着ス

午後 一一八 石山屋積方了ル

三二五 和歌浦丸 未合

五四六 半速 針路 東六五。漂泊

位置 田島、南東ノ南十五度

聯合艦隊告示第ニ〇八號

1535

十二月十三日

晴

午前北東力三ノ三午後北東力一

午前

八〇 起動、早速、北西六西ニ定針

九四五 千代丸未合

一〇二〇 神戶丸未合

一〇四〇 深泊、仕置、内島、南二十五度東七海

一一五〇 三老年度距離目側優等側手証状授與

了、艦長訓示

午後 〇〇 八重山未合

一三〇 通信艇四十六号未着

一五 起動、早速、東南東ニ向、

七〇 深泊、仕置、内島、南々東九東十台海

聯合艦隊法令第八三號

海

聯隊法令第八三號

八重山

右臨時第三戰隊ニ編入

八島

大島

赤城

右臨時第七戰隊ニ編入

明治廿七年十二月十三日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

海軍

十二月三日 艦長訓示 砲台 於内島沖

一 距離目測の善悪は訓練の砲台の熱心と相俟てて近來著しく進

歩を著し、人余大に満足す。所々は、本年年度成績、如き目測者

二百三十五名中平均得点五莫以上ヲ得たモノニ一名ノ多き處を目測ハ

戦闘中通報器ノ破損、砲台將校ノ負傷其他ノ場合ニ於テ

空測ノ巨砲ノ通報スル能ハサル。爾時其砲ノ威力ヲ發揮スル巨砲大

要素ナル射手ニモ砲台員ニモ特に注意シ、猶一層ノ奮勵ヲ望ム

一 巨砲通報器ノ完全ニヤ否ヲ試サント欲シ、過日未施行也。成績ヲ

見ルニ其結果不良ナル人余ノ最モ遺憾トスル所ナリ。要之、今回ノ不良ナル

結果ハ通報器其物ヲ用テ之ヲ使用スル諸員ノ不注意ニ因リ、人余ノ

煩シ不備トスル所ニテ、同様練習於テ誠心ノ欠乏ヲ表明スルモノナリ。操練

ハ實ニ之ヲ施行スル各員ノ精神如何ニ依リ、其効力ノ程度ヲ増減

スルモノナリ。須テ誠心誠意從事セザんヤカニ

一、約方ヲ復ヨリ或シ波羅の艦隊ヲ撃破セザル可カラサテ諸氏ハ常ニ之ヲ念頭ニ
銘シ事々物々此心ヲ以テ実行スルニ今右軍港ニ般ルモ余ガ内島附近ニ於テ
常ニ訓誡セシ此事ハ決シテ忘却スルコト勿レ

一、昨夜高砂港汶ノ悲報ニ接ス且レ且廠秘密ヲ守ルル事モミテ厚信申
此事ヲ云々スミテ廠林ホス

十二月十五日 曇時降雪 午前西南多雲南風二午後北及西多風カノ一

七章世八度世七分

凍至三三度世分

午前

〇三〇 東南東ニ音、二燈光ヲ認ム

一三〇 竜田ノ空砲一發右汽船ヲ偵テ

一二五 雪降ル

二〇〇 右汽船ハ武揚丸ナリヲ知ル

七〇 富士未会

七五三 半速、北ノ西ニ向テ

九五 深泊、位置、内島、南東ノ南七度

一一〇 竜田未会

午 〇三四 通信艇、廿七号未着

一一五 内筒砲射撃(実射)

六。起動、南へ東へ定針、半速
七。深泊、四島、南東へ南へ六
聯合艦隊告示第ニ九號

十二月十五日 晴及曇 西風力二 北岸

午前 二三〇 敵降ル

八〇 起動、半速、北西へ西に空針

一〇一〇 漂泊、四島、南東大窪

午後 〇四五 音羽未合

三四〇 降雪

五三五 日進、富士未合

五五五 起動、半速、起動、四島、南東、北東十三窪、針路南へ東

一一三〇 汽船及航入

廿日、卒、六十五名乗艦入

聯合艦隊告示第二一〇號

全 辨外

海軍

十二月十六日 晴 北風力四五 北事

午前 〇一五 奄田一汽船が臨検入

〇三〇 北西に妻針入

〇五五 原速、回転六十三

ハ四 艦首に夫録島が認め

九二〇 左舷正横に内島が認め

一一二五 富士が列外見え、之に夫録島の南方に深泊レ大

連り来し所通信艇に合スルガ為ナリ爾余ノ諸

艦ハ深三地真に入リ

此時より操艦ヲ用イレルハウミニテナス

一一二五 北東に北に妻針入

午 〇五〇 開陸處

〇五九 仮泊用意

一三五 停止、左舷、錨ヲ投下ス

位置、碇、碇、南東、東、哈仙島、東端、南、西、北、西

錨鎖五節、底泥水深十二尋

和歌浦、十、五、時、水、雷、四、本、ヲ、送、ル

五〇 富士、入、港

聯合艦隊告示第二二一號

十二月廿七日

晴

北々甚西風アリ

長山列島

午前 九二五 宇治出港八雲入港

一〇六 運彈員運彈探練

午後 一一五 朝日艦長以下各將校勲章授與了テ本艦

下士以下勲章授與了テ艦長訓示

四二五 八雲ヨリ十四時水雷山本受取ル

聯隊法令第八四號

聯合艦隊告示第八二二號

海

聯隊法令隊八伍號

音羽

八重山

右臨時隊大戦隊ニ編入ス

高砂

右臨時隊大戦隊ニ編入ス

明治廿年五月十七日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

海

三月十七日 艦長訓示 総員ニ 於長山列島

一 敵前機械水雷陸置とせん者ト共、只今特別善行ヲ奉授候
榮海丸一等水兵大谷常雄ハ過日洋中載出際一乗員ノ
誤テ洋中ニ沈ケテ見 直ニ跳リ入り之ヲ援助シタル者ニテ
其行ニモヤ上官ノ命アリテ先自ラ率先難事ニ處レ其法度ニ
テ得候ニ衆人ノ模範トスルニ定ル可レ是レヲ以テ今回長官ノ認
可ヲ得テ今日ノ褒賞ヲ授ケルニ決メテ本職性ニ我無負ハ
総テ斯クノ如クシテ一人ノ危急ヲ林ノ猶且ッ斯ノ如ク沈ニヤ
一 万六千噸ノ此ノ大艦ノ危急聲言ハ漂泊中風下ニ浮流水雷
近キ時ノ如キトゾヤ上官ヨリ何等ノ命ヲ候タズシテ直ニ海中
跳リ入りテ之ヲ安全巨萬外ニ壓シ除ケルカ如キ勇力取ル行願
為ニ成ルモ才カ無負中ニモタラシテ信シテ疑ハス

十二月十八日 晴 北東及北風カ一 褒長山列島

午前 八一〇 八雲岬港

一〇 九 東郷司令長官のしるしに赴かれ 将旗ヲ彦田ニ移ス

午後 一、四三 福岡丸入港 投錨

縣隊法令屏八五部

海

軍

聯隊法令屏八五野

屏九艇隊

屏十四艇隊

右二艇隊ノ母艦ヲ熊野丸ト改定ス

屏十艇隊

右母艦ヲ日光丸ト改定ス

屏一艇隊

右母艦ヲ春日丸ト改定ス

明治三十二年十一月十八日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

海軍

十二月十九日 晴

東北東々東ノ風カ〇一

裏長山列島

午前一〇一五 釣山丸ヲ横付け、淡水取方ヲナス

午後 〇三〇 魚形水雷四本ヲ、釣山丸ニ積ム

聯合艦隊告示第三一三號

海

軍

十二月廿日 晴 北風吹

裏長山列島

試運転の結果好良

二一〇 英國駆逐艦ヨエ入港

二二五 英二将校乗艦

六三〇 航海燈ヲ点シテ 汽船入港、小蒸汽ヲ遣シテ

検査シテ南越丸ナリ

海軍

十二月廿一日 晴 北風力二 褒長山列島

午前 七三〇 神戶丸出港

午後 〇三〇 香取入港

〇三三 朝霧村入港

三三〇 竜田入港

三三五 東郷司令長官の艦將旗ヲ三笠入移入

聯合艦隊告示第二四號

海

十二月廿二日 晴

甚及甚正風力也

長山列島

午前 七時 音羽入港

〇五五 松山丸入港

三〇三 劍山丸入港

聯隊法令牙八六號

全 牙八七號

聯合艦隊告示牙二一五號

海

軍

聯隊法令第廿六號

朝霧

右臨時第一駆逐隊ニ編入

明治廿七年十二月廿二日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

聯隊法令第廿七號

第廿九號艦

第廿七號艦

右臨時第廿二艇隊ニ編入

明治廿七年十二月廿二日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

海

軍

十二月廿三日

晴

甚西及北ノ風力ニ

ノ裏長山列島

午新ハ二〇 富士ノ巻

聯合艦隊告示第ニ一六號

海

軍

1556

十二月廿五日 晴

北及西風力二三 褒長山列島

午前一〇一〇 内筒砲射撃

午後 二五〇 通信艇四十九号来着

勅語及奉答文

電報文

聯隊法令屏八八號

聯合艦隊告示屏二一七號

海軍

傳達

明治三十七年十二月廿四日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

奉 詔 (十二月廿三日)

旅順方面に於て我水雷艦隊は連夜風雪ヲ浸シ強固ニ防禦シ
テ排シテ敵ノ戰艦ヲ襲撃シ僚艦相援テ寸毫混亂ヲ克シ其
仕勢ヲ果シ蓋シ其操縱ノ伎倆ト敢為ノ氣力トヲ發揮シ得テト聞ク
朕深ク其事ニ感佩シ將校下士卒ノ忠烈ヲ嘉賞ス

奉 答 (十二月廿四日)

旅順ノ殘存敵艦ヲ襲撃シテ廢下水雷艦隊ノ微切對
優渥ニシ 御勅語ヲ賜テ一同感激ニ堪ムル水雷艦隊ハ
尚此後ノ敵ニ對シ為スル所トテ益々奮
聖恩ニ酬ヒコトヲ期ス

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

左ノ件傳達ス

明治廿七年十二月廿四日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

電報 (十二月廿三日)

旅順港内ノ敵艦ハ二〇三高地ニ據リ我カ攻圍軍ノ大行撃手俵
リテ概ネ沈没シ僅カニ港内ヲ出テ、砲壘掩護ノ下、港外ニ潛伏シ戰
艦軍モ我勇攻メシ水雷艦隊ノ強襲ニ傷ミテ其能力ヲ失ヒ餘ハ微
弱ナルニシテ艦ヲ残スノ状態ニ陥リ殆トト旅順艦隊ノ全滅ヲ見シ
至リタリトノ報達ニ接シタリシハ印家ノ為メ莫ク慶賀ニ堪ヘタリト回想スルハ
開戦以來茲ニ殆トトスル月貴艦隊ノ奏セシタリ偉績ト思ハレタリ

報者トノ之ヲ肆クテ須ヒス或ハ敵艦砲撃ニ或ハ閉塞事業ニ殊行
 封鎖ニ逸ガ敵艦ノ攻撃ニキレシ(奉止也)各其從ノ所ニ任シテ過スニ
 報國ノ至誠ヲ奉テ之ニ當リ各部隊ノ動作又常ニ策定ニ伴ヘリ其間我
 艦艇ニ若干損破ヲ生シモ其非スト雖モ由未攻撃部隊ノ比較的
 大ノ損害ヲ受リキレナリトノ見セヨトシテ觀シテ固ヨリ計量スル所ニ入ラズ
 今ヤ敵艦隊ノ状態波カハシ是ト實ニ 大元帥陛下ノ御威徳ノ然
 ン所ニシテ感激措ク無クシテ言フ俟タスト雖モ責艦隊ノ施カレタル策畫ニ
 其固ニ當リ各般ノ行動終始之ニ適應セリ至ル所ヨリト確信ス茲ニ過
 リ長月間ニ於ケン聯合艦隊ノ偉業ニ對シテ衷心ノ感謝ヲ表スルト共ニ
 之ノ成効ヲ祝ス進シテ貴艦隊士氣ノ益シ旺盛ナラシメテ葉ニ戰局ノ
 發展ニ應ヒテ着々其任ヲ遂行シ以テ最終ノ目的ヲ達スルニ切望ス

海軍大臣

全 (五月廿三日)

本年三月間、敵以我聯合艦隊、常ニ敵ヲ制壓シテ陸軍大輸送ヲ遂行セシメ、時ニ敵艦隊ヲ海ニ擊破シ又風濤濃霧ヲ肩シ長日月間ノ封鎖ヲ強行シ或ハ烈ニ閉塞ヲ率テ行ヒ敵方ノ下ニ機械水雷ヲ沈匿シ陸軍月トテ水雷掃海艦ヲ清掃シ敵方ノ顧ム監視嚴シシ時ニ猛烈ナル水雷襲撃ヲ行ヒ攻圍陣地ヲ破リテ旅順内、敵ヲ砲撃シト全滅ニ呼ビテ茲ニ作戦ノ一頁落テ告ケ優ニ東来ノ敵艦隊ニ對スル準備ヲ整フントテ得ニ至ル其間ニ多クノ損害ヲ蒙リシト雖モ之ニ元ヲ戰争ノ性質上止ムヲ得サレ所シテ之ヲ敵ノ損害ニ比スルハ顧ムニ足ラザルナリ我聯合艦隊中此偉大ナル功果ヲ著ケ得タルハ元ヨリ大元帥陛下ノ御稜威ニ依ルト雖モ抑モ亦閣下及麾下將校兵卒カ忠勇果敢ナルノ致ス所ナラズシバ且今閣下ノ報告ニ接シ感喜措ク能ハス恭テ祝詞ヲ呈ス

海軍々令部長

聯隊法令第八百號

軍艦朝日

軍艦青田

右臨時第五戰隊ニ編入ス

軍艦博雲

右臨時第五駆逐隊ニ編入ス

明治廿七年十一月廿五日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

海

十二月廿五日 艦長訓示 諸君、於長山列島

一 聯合艦隊司令長官ハ上命ニ由リ帰國セシ我三笠ハ吳ニ廻航シ

諸般ノ修理ヲナサレトス 敵艦隊ハ今ヤ殆トシ全滅シ駆逐艦ノ港内

ニ至ルモノ我軍砲隊ノ砲撃ヲ為メ一昨日ハ三隻ヲ沈没セシメ今ヤ港外

ニ至ル六隻ノ駆逐艦及二三ノ小砲艇ト殆トト駆逐艦力ヲ失ヒタルヲ思ハズ

一隻ニ過スルヲ見テ目心モ存日艦載水雷艇隊被衣撃手々作ノ豫定ナリ

敵艦隊ヲ見テ斯クノ如キ状態ニ至ルモノヲ得タルハ實ニ我ガ

天皇陛下ノ御威徳然ラシム所ナリハ勿論ナトト臣モ亦聯合艦隊ガ忠

以未能ク其任務ヲ全クシタト我ガ攻圍軍ノ熱誠ニ感服事ト當リトス

依ラズンバアラスルヲ見テ海軍大臣及軍令部長ハ懇切ナル祝儀ヲ司令

長官ニ送リ聯合艦隊中ニ在リ以テノ辛苦能ク我ノ大任ヲ全クシタルヲ感謝ス

ト告知、並ニ其祝電朗讀

一 同帰國スルモノモ快シテ傲慢ノ態度ヲ以テ人々ニ接シ一般人民ノ嫌惡

ス所トナ勿シ

一、帝に有力な彼ノ同レキトシ艦隊ト對戰シ何時モ之ヲ全滅シ得ルヲ

確信ヲ以テ軍人ノ氣象ヲ發揮シ一人タリトモ健康ヲ失ズ一艦ノ戰鬪力

ヲ減殺スルヲ銘記シ各自身体自衛ノ途ヲ講セヨ

一、四島附近ニ於テ反覆教育セラル精神教育、巨海目測、内筒砲射撃

ノ技ニ至ラズ決シテ日モ忘却スルヲ許ス

一、新ニ乗艦スル新三等機関兵、木工、四等水兵ハ能ク各自ノ配置ヲ

熟知シ艦長以下諸將校ノ訓戒ヲ嚴守シ各部長及先任者ノ命ヲ

遵奉シ誠意誠心ヲ以テ雑務ヲ勵ミ艦内諸般ノ配置事業ニ

精通シ帝ニ砲ノ威力ヲ發揮スルニ心掛日軍港等ニ上陸スルアルモ徒ニ

飲饌酒スルヲ許ス

十二月廿六日

晴

西及北西風力二

北緯廿四度十分

東經百廿四度十分

午前

七四五 南東北東に黒山島を認む

八五〇 艦首に汽船ヲ認ム遂に其針レシテヲ逐ク

九二四 空砲一発、次に十二斤一発(実弾)ヲ發シ該船ヲ停止セシム

該艦船ヲゲキ止テ知んテ臨候セシム異状ナシ解放ス

一一三二 原速ニ復ス

午後 〇三〇 南東方より煙ヲ認ム

〇五〇 黒山島頂ヲ東七度北十二度見南東北南ニ其針

一〇〇 南東に見然し煙ハ其商船カランドレシニテ信号ニテ其来所ヲ

問フ答テ白ク、ハノ津ヨリ行先ハ芝罘ナリ貨物ハ雜貨トシテ

因テ解放ス

四三〇 濟州島ヲ東南東ニ認ム

一
〇
〇
黒山島ヲ北迄加西ニ見失ノ
東ノ南ヲ南ニ妻針

十月廿七日 晴 午前北力ニ 午後西南西力一二

北緯廿四度十分

東經百廿五度五分

午前

五四五 大瀬崎燈台ヲ北東北東北東ニ見テ南東北東ニ変針

九二五 下甕島ヲ船首ニ認メ

一一二五 南東北南ニ変針

午後

〇五〇 釣掛燈台ヲ左舷正横四度半ニ見テ南東北東北東ニ変針

針

一三〇 鷹島ヲ右舷正横四度ニ見テ南東北南ニ変針

三五六 南東北南ニ変針

五五〇 佐多岬燈台ヲ左舷正横五度ニ見テ針路ヲ東ニ変メ

六五〇 佐多岬燈台ヲ西北西北北十度ニ見テ北東ニ変針

八〇〇 右燈台ヲ見失フ(西加南)

午前

七月廿八日 晴

北北西風力ヲ三 正午由利島頂、南東イ南渾ハ

一 大島燈台、南西加西ニ見矢ノ

五四五 水子燈光ヲ北ニ癸見ル

五五三 右燈光ヲ北ニ渾ニ見テ針路ヲ北ニ変ル

六四七 先ノ瀬ヲ北西加西約六渾ニ見テ北イ西北西ニ変針

八五六 佐田岬ヲ右舷正横一渾北ニ見テ通過ス

九一〇 佐田岬ヲ南東加南四渾ニ見テ北東イ東ニ変針

一一二八 小水無瀬島ヲ左舷正横二渾加ニ見テ北東イ東ニ変針

午後
〇 由利島頂ヲ左舷正横一渾ハニ見テ北イ東イ東ニ変針

〇 二〇 クダゴ水道ニ向ル

〇 二五 小市島ト中島ト中間ヲ通過ス

〇 四七 クダゴ水道ヲ通過ス

〇 五〇 大鏡島ヲ北イ東イ東一加渾ニ見テ西北西北ニ変針

横島中央ニ向フ

一〇 羽島ヲ北ニ西ニ見テ北々西ニ変針

一一 横島ト羽島トノ中間ヲ通過ス

一二 鷲ヶ崎ヲ北々西ニ見テ北々西ニ変針

一三 鍋島ヲ右舷正横半程ニ見テ北々西ニ変針阿々田頂ニ向フ

一四 白石ヲ右舷正横半程ニ見テ北々東ニ向フ

一五 鷹巣津ヲ北々東ニ見テ東々北ニ変針ナサレバ水道ニ向フ

二〇 那砂美水道通過

二一 似島水道通過

二二 屋形石通過

二三 乃了浮漂ニホリヤシヲ探ル

二四 右舷錨鎖繋留了ル

三五六 柴山吳鎮守府長官未艦

五五〇 國平船ヲ横付シテ十二吋彈丸ヲ下ス

九三八 右了レ(三五二何)

后部左砲揚方為メ造兵職工徹夜ス

海

軍

十月廿九日 晴 曇 無風 吳港

午前 八、三 土時 彈丸及刃タルシ 錨「スタルシケル」揚方ニカハシ

八四五 敷島出港

午 〇三七 浮漂ヲ遠浅航シ「カレト」下ニ向フ

〇四二 「カレ」ト下ニ繫留シ「カレ」

二一〇 前後構構四ツテ「カレ」下入

二二〇 后部土対右砲身ノ残部ヲ陸揚ス

三一〇 后部糧食庫ノ糧食ヲ前部庫ニ移ス

三五〇 后部土対右砲機ノ揚子「カレ」ト下ヲ落ス

四五〇 内一番浮漂ニ繫留

八三〇 錨鎖出方「カレ」ト「后」岸板西側ニ「カレ」國平船ニ積方了

海軍

十二月三日

晴

西及北無風力ニ

吳港

午前ハ。鋪鑽、鋪等ノ陸揚中甲板砲ヲ引入レ樓付用意

前橋樓砲ヲ下ス

午後一五 前橋側ヲスポンリト「ネト」ヲ取外ス

豫備艦倉庫下ニ物件ノ揚陸

「ストレンヂカ」二個「ストリムケル」十三節「トインダケル」

六節

本右砲搭左砲身陸揚ノ管ナリモ天候ノ為メ中止

痕諸損所修理ニ着手前後艦橋探海燈四個

揚陸

海軍

十二月廿日 晴 西及北風力ニ 吳港

午前一のハ 牙一牙二カマシ石舫を 揚り陸揚入后甲板 端舟
カビトシ 倒し十八吋水雷四本 十四吋水雷二本 取込

聯合艦隊告示 牙二九 辨

海軍